

平成30年度 第1回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成30年6月6日(水) 13時30分～15時30分

2 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 木曽ブロックのヒノキ3mについて12月までは需要があったが、年が明けてから需給バランスが崩れた。材が少なくなる時期であるが、今年は立木を確保しており4月には持ち直したため問題はない。
- ・ 岐阜南部ブロックでは冬期間の降雪の影響もあり徐々に回復はしているがスギが不足している。また、ヒノキ造材が4mに偏った時期があった。
- ・ 欲しいものが入らない。大手製材工場や合板工場へA材まで流れてしまい苦労している。安定供給が必要な工場優先になっているのでは。木を伐るといっても人手がなく製材したくても原木がない。森林環境税が導入された時に用材はどうなってしまうか不安。
- ・ 大型製材工場や合板工場等、地元優先になっているのは仕方ないが、素材生産については各県で供給が間に合っていないのではないか。
- ・ 山林労働者がいない。以前は素材生産業者も製材業者も潤っていた。今では製品価格が当時の4分の1にまで下落した。伐る人もいなくなってしまった。
- ・ 素材生産量は伸び悩んでいて中小の製材業者は原木確保に苦労しているし、大規模工場は欲しいばかり。山元に対する政策はどうなっているか。山元は何も変わっていない。
- ・ 地域によってバラツキがある。東信はカラマツの造林が他地域より早かったこともあり間伐から主伐へ急速に変わっている。また、生産事業体も多く、カラマツの需要も旺盛であるが、他の地域では樹種や齢級構成が多様で、あまり進んでいない。民有林では経営計画に基づき施業を進めているが、計画的な生産が出来ていない。

- ・ 量的には増えているが、バイオマスへの供給がメイン。生産性は上がっているが労働力は下がっているのが一番の課題。補助金が安定していないと人材も雇えないという事業者の声もある。今後は間伐だけでなく皆伐も推進していく。
- ・ 愛知県豊田市の大型工場については8月頃の稼働に向けて準備中。県としては主伐により生産量の増加を目指している。
- ・ なかなか材が流れてこないという状況の中で長野県森連ではカラマツの皆伐を推進しており、冬期間の事業も徐々に増えてきている。
- ・ 中南信ブロックのヒノキ4mの単価が上がってきている。数ヶ月での動きだけでなく長期的な動きも重要ではないか。